



OSAKA 飲食・理美容 開業レポート ver2

＜調査方法＞

行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出



Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、大阪の店舗(飲食/理美容)に関する調査結果を発表いたします。

大阪飲食店開業ランキング 2024年1月～12月

大阪の飲食店開業 市区町村ランキングTOP5	…P4
大阪/市区町村別 飲食店開業数ランキング	…P5～6
大阪/飲食店ジャンル別 開業数ランキング	…P7～8
全国と比較した大阪特有の飲食店	…P9～10

大阪理美容開業ランキング 2024年1月～12月

大阪の理美容開業 市区町村ランキングTOP5	…P11
大阪/市区町村別 理美容開業数ランキング	…P12～13

「飲食 × 理美容」業種の開業分布と地域性

大阪/市区町村別 飲食&理美容開業数ランキング	…P15
「食」と「美」を融合する街大阪	…P16～17

御堂筋線 × 飲食&理美容開業レポート

御堂筋線 × 飲食&理美容開業数	…P19
数字に見える、大阪の“開業マインド”	…P20～21

中央線 × 飲食&理美容開業レポート

中央線 × 飲食&理美容開業数	…P23
万博開催の中央線、その「にぎわい」と「静けさ」	…P24～25

OSAKA 飲食・理美容開業レポート ver2 まとめ

大阪飲食・理美容レポートまとめ	…P27～28
-----------------	---------

大阪飲食店開業ランキング 2024年1月～12月



大阪の飲食店開業 市区町村ランキングTOP5



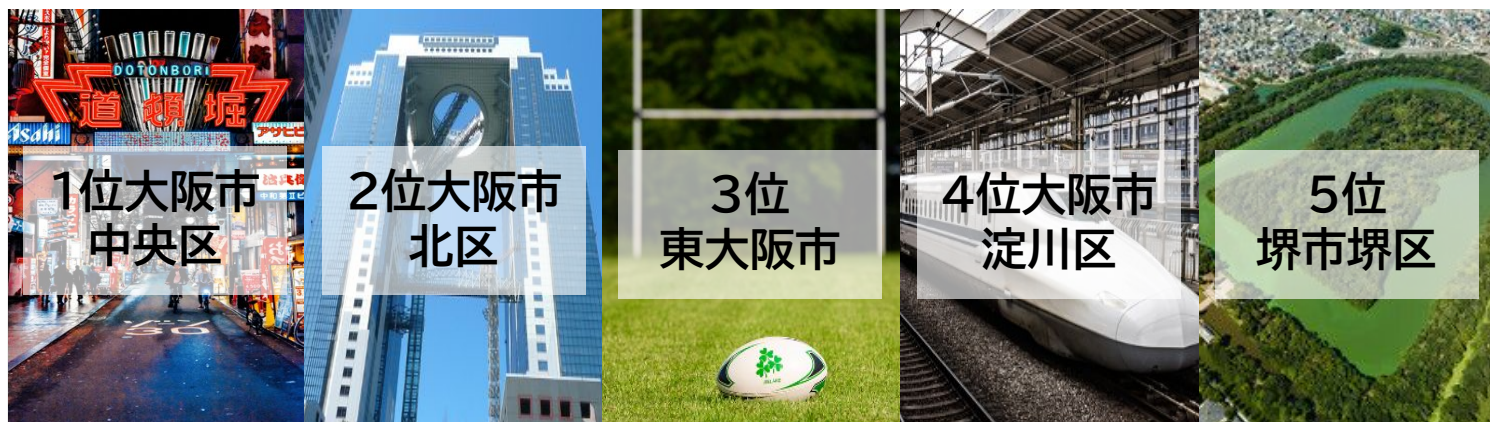
2025年大阪は万博の開幕を迎え、ますます注目を集める都市となりました。国内外から多くの人々が訪れる中、飲食業界や理美容業界も大きな変革期を迎えています。

本レポートでは、大阪エリアの飲食業界および理美容業界の現状を分析し、最新の市場動向やトレンドを深掘り。データに基づいたレポートを提供し、ビジネス戦略の立案や市場理解に役立つ情報をお届けできればと思います。

大阪の飲食店開業 市区町村ランキングTOP5

2024年1月～12月の飲食店開業数ランキングを発表いたします。

大阪の飲食店開業数ランキングトップ5には、以下の市区町村がランクインしています。



1位
大阪市
中央区



2位
大阪市
北区



3位
東大阪市



4位
大阪市
淀川区



5位
堺市
堺区

1位 大阪市中央区(700件)

ビジネスと観光が融合する中心エリアとして、飲食店の集積が目立ちます。万博開幕によるさらなる活性化が期待されているエリアです。

2位 大阪市北区(650件)

中央区と並び、ビジネス街として活気がある北区も多くの飲食店が集まっており、特に梅田エリアが中心となっています。

3位 東大阪市(286件)

製造業が盛んなエリアながら、ベッドタウンとしての魅力もあり、地元密着型の飲食店が多く出店しているのが特徴です。

4位 大阪市淀川区(164件)

新大阪駅を中心とし、ビジネスマンや観光客をターゲットにした店舗が多く、利便性が高い立地がポイントです。

5位 堺市堺区(144件)

大阪南部の中心エリアであり、観光客と地元住民双方に支持される飲食店が多く見受けられます。

大阪/市区町村別 飲食店開業数ランキング

2024年1月～12月の大阪の飲食店開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年1月～12月 大阪開業件数合計 5,214件

飲食					
市区町村		開業数			
大阪ALL		5,214			
1	大阪市中央区	700	37	大阪市旭区	43
2	大阪市北区	650	38	堺市中区	43
3	東大阪市	286	39	堺市北区	43
4	大阪市淀川区	164	40	大阪市東住吉区	42
5	堺市堺区	144	41	大東市	41
6	大阪市西区	142	42	藤井寺市	39
7	枚方市	135	43	泉南市	34
8	豊中市	134	44	大阪市西淀川区	33
9	大阪市西成区	112	45	泉大津市	33
10	大阪市生野区	107	46	貝塚市	31
11	大阪市福島区	101	47	大阪市此花区	30
12	八尾市	100	48	大阪市港区	30
13	吹田市	96	49	河内長野市	27
14	大阪市阿倍野区	93	50	富田林市	26
15	大阪市浪速区	90	51	堺市南区	25
16	高槻市	86	52	羽曳野市	23
17	岸和田市	85	53	大阪狭山市	23
18	大阪市都島区	83	54	堺市東区	20
19	寝屋川市	80	55	大阪市鶴見区	19
20	茨木市	79	56	柏原市	18
21	大阪市住吉区	75	57	摂津市	18
22	大阪市住之江区	73	58	高石市	17
23	泉佐野市	71	59	交野市	15
24	大阪市平野区	68	60	四條畷市	14
25	和泉市	65	61	阪南市	14
26	門真市	65	62	堺市美原区	10
27	守口市	64	63	泉北郡忠岡町	10
28	大阪市東成区	63	64	豊能郡能勢町	7
29	大阪市天王寺区	62	65	泉南郡熊取町	7
30	池田市	61	66	三島郡島本町	6
31	箕面市	57	67	南河内郡河南町	6
32	大阪市東淀川区	56	68	泉南郡岬町	4
33	大阪市城東区	56	69	南河内郡太子町	3
34	松原市	56	70	泉南郡田尻町	2
35	堺市西区	49	71	南河内郡千早赤阪村	2
36	大阪市大正区	47	72	豊能郡豊能町	1

2024年1月から12月にかけて、大阪府全体で5,214件の飲食店が新規開業しました。

大阪/市区町村別 飲食店開業数ランキング

大阪府内では、中心部だけでなく、郊外や住宅エリアを含むさまざまな市区町村で、飲食店の開業が見られ、エリアごとの特徴を反映した多様な店舗が増加しています。



開業数の傾向

大阪府全体で5,000件を超える開業数がある中で、特に注目すべき点は、中心部だけでなく周辺エリアでも一定数の開業が確認されたことです。

中心部である大阪市中央区や北区を除いても、東大阪市(286件)や枚方市(135件)、豊中市(134件)など、住宅地が多いエリアでも新規出店が増加しています。

この傾向は、万博関連のインフラ整備や都市開発が周辺地域にも波及し、飲食店のニーズが拡大していることを示しています。



エリア特性と開業動向

中心部では、ビジネス需要や観光客の流入を背景に、飲食店が急増している一方で、住宅地を含むエリアでは、地域住民をターゲットとした小規模店舗やファミリー向けの飲食店が増加傾向にあります。

特に、東大阪市や豊中市といったエリアでは、住環境の整備が進み、新規住民を取り込む形での出店が活発です。

さらに、交通拠点となる新大阪駅を抱える淀川区(164件)のように、ビジネス需要と観光需要をバランスよく取り込むエリアも存在し、多様なビジネスモデルが試みられています。

中心部と郊外にはそれぞれ異なる特徴！



大阪全体で見た場合、中心部と郊外の開業動向にはそれぞれ異なる特徴があるため、エリアごとの特性を活かした戦略が求められます。

万博開催による人の流れが加速する中で、飲食店も観光対応を強化する一方、住宅地では地元密着型サービスの拡充がカギとなるのではないのでしょうか。こうした地域特性を踏まえた施策を講じることで、大阪全体の飲食業界はさらなる発展を遂げることが期待されます。

大阪/飲食店ジャンル別 開業数ランキング

次に、2024年1月～12月の飲食店ジャンル別開業数ランキングを見てみました。

2025年の万博開幕を目前に控え、大阪では飲食業界がさらなる盛り上がりを見せています。国内外から多くの観光客が訪れる中、飲食店の新規オープンも増加しており、そのジャンルも多岐にわたります。

2024年1月から12月にかけて、大阪府全体では5,214件の飲食店が新規開業。その中でも注目されるのは、やはり「大阪らしさ」を感じさせるジャンルが多い点です。

飲食		開業数		
	ジャンル			
	大阪府ALL	5,214	14 カレー店	60
1	飲み屋・居酒屋	480	15 寿司店	58
2	カフェ・喫茶店	324	16 肉調理店(焼肉・焼鳥・ステーキ除く)	54
3	バー	288	17 ファーストフード	44
4	各国料理	231	18 麺類(うどん)	36
5	専門料理店	185	19 キャバレー・ナイトクラブ・ラウンジ	32
6	焼肉	163	20 丼・定食	28
7	ラーメン	158	21 鍋料理	25
8	お菓子・スイーツ	144	22 ステーキ	15
9	一般レストラン	105	23 麺類(そば)	14
10	和食・郷土料理	105	24 分類できない飲食店	3
11	中華料理	101	25 配達飲食サービス業	1
12	焼き鳥	84	26 料亭	0
13	お好み焼き・たこ焼き・焼きそば等	69	27 その他飲食店	2407

大阪らしさと多様性が交差する街



ジャンル別ランキングの1位は、飲み屋・居酒屋(480件)、2位カフェ・喫茶店(324件)、3位バー(288件)という結果になりました。

2024年の大阪では、万博を意識した店舗作りや、多様性を意識した飲食業態が増加傾向にあります。コロナ禍を乗り越えた今、新しい飲食文化が根付き始め、今後の展開にも期待が高まります。

ではジャンル別の傾向を見てみたいと思います。

大阪/飲食店ジャンル別 開業数ランキング

1位 飲み屋・居酒屋(480件)

まず、ランキングトップとなったのは「飲み屋・居酒屋」で、480件の新規開業がありました。大阪といえば、活気ある飲み屋街が思い浮かびますが、コロナ禍を経て再び街ににぎわいが戻り、地元住民だけでなく観光客も楽しめるスポットとして需要が高まっています。特に、万博を意識したインバウンド対応の店舗が増え、多言語メニューを備える飲み屋も増えています。

2位 カフェ・喫茶店(324件)

次に多かったのは「カフェ・喫茶店」で、324件が開業しました。インスタ映えを意識したカフェや、リモートワーク対応のスペースを備えた喫茶店が増え、特に若者やフリーランスの利用が目立ちます。最近では、レトロカフェが人気を博し、昭和風情を楽しめる空間がSNSで話題となっています。

3位 バー(288件)

続いて第3位は「バー」で、288件の開業数となりました。夜の大阪を楽しむためのバーは、外国人観光客が訪れるエリアを中心に急増中です。特に、国際色豊かなバーが注目されており、万博を見据えたグローバルな取り組みが進んでいます。



集まって楽しむ空間と多様性の融合

万博開幕を控え、外国人観光客の流入がますます増加することが予想される中、飲食店の多様化がさらに進むと考えられます。特に、飲み屋やカフェ、バーといった「集まって楽しむ」空間を持つ業態は、今後も需要が拡大するでしょう。

また、各国料理や専門料理店の台頭も見逃せません。大阪は古くから食文化が発展してきた街であり、その強みを活かして地域色を打ち出しつつ、多様性を取り入れた店舗展開が求められるでしょう。

全国と比較した大阪特有の飲食店

大阪らしさを象徴する飲食店とは！？



お好み焼き・たこ焼き・焼きそば等(大阪比率:14.6%)

大阪らしさを象徴するジャンルとして注目されるのが、「お好み焼き・たこ焼き・焼きそば」です。全国で473件の新規開業がある中で大阪だけで69件を占めており、その割合は14.6%に及びます。大阪は「粉もん文化」が根付いており、観光客のみならず地元住民に愛されていることが、この開業数の多さに直結していると考えられます。

鍋料理(大阪比率:13.8%)



「鍋料理」も大阪特有のジャンルとして際立っています。全国で181件の開業数のうち、大阪では25件が新規オープンしており、全国比で13.8%を占めています。冬の季節や歓送迎会など、飲み屋文化と結びついた形で鍋料理が支持されている点が特徴です。また、個室対応や宴会スペースを持つ店舗が多く、グループ利用がしやすい点が評価されています。

焼肉(大阪比率:13.1%)



次に、「焼肉」も大阪特有の人気を誇っています。全国で1,248件中、大阪では163件が新規開業しており、13.1%の割合を示しています。大阪の食文化では「がっつり食べる」というスタイルが根付いており、焼肉店は若者やビジネスパーソンの間でも根強い人気を誇っています。また、大阪独自のスタイルを持つホルモン焼きや肉バルも含まれている点が特徴です。

「大阪らしさ」を感じさせるものが多い

粉もん文化を背景にした「お好み焼き・たこ焼き・焼きそば等」や、「がっつり系」の焼肉店、宴会文化を反映した鍋料理が上位にランクインしています。万博を控えたインバウンド需要の増加が、これらジャンルの人気をさらに押し上げていることも見逃せません。

大阪の飲食業界は、伝統とトレンドが融合した独自の進化を遂げています。観光と地元需要の両立を目指し、今後も「大阪らしさ」を打ち出す店舗戦略が鍵となるでしょう。

大阪理美容開業ランキング 2024年1月～12月



大阪の理美容開業 市区町村ランキングTOP5

2024年1月～12月の理美容開業数ランキングを発表いたします。

大阪の理美容開業数ランキングトップ5には、以下の市区町村がランクインしています。



1位 大阪市北区(82件)

ビジネスマンをターゲットにしたヘアサロンや、流行を意識した若者向けの美容室が多く見られ、利便性を重視した立地が開業数に影響していると考えられます。



2位 大阪市中央区(70件)

観光客を意識した多言語対応サロンや、トレンドを意識したおしゃれな美容室が急増しています。北区と並ぶ大阪の中心地であり、競争率も激しいが、「おしゃれな街」であることがブランディングにも。



3位 東大阪市(29件)

ベッドタウンとして発展しているため、地元住民向けのカジュアルな美容室が多いのが特徴です。ファミリー層向けのリーズナブルなカット専門店や、地域密着型の理美容室が目立ちます。



4位 豊中市(28件)

北摂エリアの住宅街として人気があり、主にファミリー層や子供連れをターゲットにしたサロンが多く、サービスの多様化が進んでいます。



5位 吹田市(27件)

再開発や万博関連で注目されている地域で、若年層から家族連れまで幅広いニーズがあります。人口流入が続いている点で開業チャンスが増加傾向にあると言えます。

ビジネス街と住宅街の両方に対応できるサロン

上位5エリアの特徴をまとめると、ビジネス街と住宅街の両方に対応できる立地が人気の背景にあります。特に、大阪市中心部では、観光客とビジネスマン両方をターゲットにしたサロンが多く、新しいトレンドを意識した店舗が増加中です。

一方、郊外の東大阪市や豊中市、吹田市では、地元住民向けのサロンが安定して開業しています。これには、ファミリー層や学生をターゲットにしたサービス展開が寄与していると考えられます。

大阪/市区町村別 理美容開業数ランキング

2024年1月～12月の大阪の理美容室開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年1月～12月 大阪開業件数合計 647件

理美容				
	市区町村	開業数		
	大阪ALL	647		
1	大阪市北区	82	37 藤井寺市	5
2	大阪市中央区	70	38 泉南郡熊取町	5
3	東大阪市	29	39 大阪市福島区	4
4	豊中市	28	40 大阪市西淀川区	4
5	吹田市	27	41 大阪市東淀川区	4
6	大阪市西区	25	42 大阪市東成区	4
7	枚方市	19	43 大阪市東住吉区	4
8	堺市北区	17	44 大阪市鶴見区	4
9	岸和田市	17	45 泉大津市	4
10	堺市堺区	16	46 泉佐野市	4
11	大阪市都島区	15	47 河内長野市	4
12	大阪市浪速区	14	48 大東市	4
13	茨木市	14	49 大阪市大正区	3
14	寝屋川市	14	50 堺市南区	3
15	箕面市	14	51 貝塚市	3
16	高槻市	13	52 高石市	3
17	大阪市天王寺区	12	53 大阪市此花区	2
18	大阪市阿倍野区	12	54 堺市美原区	2
19	八尾市	12	55 柏原市	2
20	大阪市城東区	10	56 四條畷市	2
21	大阪市淀川区	10	57 大阪市旭区	1
22	大阪市平野区	9	58 大阪市西成区	1
23	堺市中区	9	59 大阪市住之江区	1
24	池田市	9	60 富田林市	1
25	和泉市	9	61 羽曳野市	1
26	大阪狭山市	7	62 阪南市	1
27	大阪市港区	6	63 泉南郡田尻町	1
28	大阪市住吉区	6	64 南河内郡太子町	1
29	堺市東区	6	65 南河内郡河南町	1
30	堺市西区	6	66 泉南市	0
31	交野市	6	67 三島郡島本町	0
32	大阪市生野区	5	68 豊能郡豊能町	0
33	守口市	5	69 豊能郡能勢町	0
34	松原市	5	70 泉北郡忠岡町	0
35	門真市	5	71 泉南郡岬町	0
36	摂津市	5	72 南河内郡千早赤阪村	0

2024年1月から12月にかけて、大阪府全体で647件の理美容室が新規開業しました。

大阪/市区町村別 理美容開業数ランキング



万博を控えた理美容業界の活性化

2025年の万博開幕を控え、大阪府全体での理美容業界も活気づいています。訪日観光客の増加が予測される中、美容室や理容室などが増加し、エリアごとの特性を活かした出店が目立っています。

2024年1月から12月にかけて、大阪府全体では647件の理美容店舗が新規開業しました。これにより、理美容業界はさらなる競争と成長の両面が加速しています。

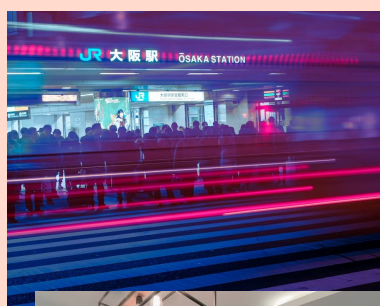


大阪市内と郊外の対比

大阪市内では、トレンドを意識したサロンや、多言語対応を強化した観光客向けサロンが増加しています。特に、万博を見据えたインバウンド需要を取り込む動きが活発であり、心斎橋や梅田といった繁華街に新規店舗が多い傾向です。

一方で、郊外エリアでは、地元密着型の美容室やリーズナブルな理容室が目立ちます。特に、東大阪市や豊中市、吹田市といった住宅エリアでは、ファミリー層や学生をターゲットにしたカット専門店が多く、地域住民の日常利用を狙った戦略がとられています。

今後の大阪の理美容業界は？



2025年の万博開催を控え、インバウンド対応を強化したサロンの需要が続くことが予想されます。特に大阪市中心部では、外国人観光客が利用しやすい多言語対応やキャッシュレス決済対応が重要なポイントとなるでしょう。

一方、住宅エリアでは、物価上昇に対する価格競争が激化し、「安くて速い」を追求する形での店舗展開が求められます。特にファミリー層や学生をターゲットにした店舗では、サービスの多様化やクーポンの活用が集客のカギとなるのではないのでしょうか。



大阪の理美容業界は、「観光対応」と「地元密着」という二軸で進化を遂げており、万博開催を機にさらなる多様化が進むと考えられます。エリア特性を活かしながら、時代のニーズに応える店舗運営が、競争力を高めるポイントとなるでしょう。



「飲食 × 理美容」業種の開業分布と地域性 ～「食」と「美」を融合する街大阪～



大阪/市区町村別 飲食&理美容開業数ランキング

2024年1月～12月の大阪の飲食店と理美容室の開業数をまとめてランキングにしました。
その結果は以下となりました。

2024年1月～12月 大阪開業件数

飲食店…5,214件 理美容…647件

大阪府									
	市区町村	開業数							
		合計	飲食	理美容					
1	大阪市中央区	770	700	70	37	堺市中区	52	43	9
2	大阪市北区	732	650	82	38	大阪市大正区	50	47	3
3	東大阪市	315	286	29	39	大阪市東住吉区	46	42	4
4	大阪市淀川区	174	164	10	40	大東市	45	41	4
5	大阪市西区	167	142	25	41	大阪市旭区	44	43	1
6	豊中市	162	134	28	42	藤井寺市	44	39	5
7	堺市堺区	160	144	16	43	大阪市西淀川区	37	33	4
8	枚方市	154	135	19	44	泉大津市	37	33	4
9	吹田市	123	96	27	45	大阪市港区	36	30	6
10	大阪市西成区	113	112	1	46	泉南市	34	34	0
11	大阪市生野区	112	107	5	47	貝塚市	34	31	3
12	八尾市	112	100	12	48	大阪市此花区	32	30	2
13	大阪市福島区	105	101	4	49	河内長野市	31	27	4
14	大阪市阿倍野区	105	93	12	50	大阪狭山市	30	23	7
15	大阪市浪速区	104	90	14	51	堺市南区	28	25	3
16	岸和田市	102	85	17	52	富田林市	27	26	1
17	高槻市	99	86	13	53	堺市東区	26	20	6
18	大阪市都島区	98	83	15	54	羽曳野市	24	23	1
19	寝屋川市	94	80	14	55	大阪市鶴見区	23	19	4
20	茨木市	93	79	14	56	摂津市	23	18	5
21	大阪市住吉区	81	75	6	57	交野市	21	15	6
22	大阪市平野区	77	68	9	58	柏原市	20	18	2
23	泉佐野市	75	71	4	59	高石市	20	17	3
24	大阪市住之江区	74	73	1	60	四條畷市	16	14	2
25	和泉市	74	65	9	61	阪南市	15	14	1
26	大阪市天王寺区	74	62	12	62	堺市美原区	12	10	2
27	箕面市	71	57	14	63	泉南郡熊取町	12	7	5
28	門真市	70	65	5	64	泉北郡忠岡町	10	10	0
29	池田市	70	61	9	65	豊能郡能勢町	7	7	0
30	守口市	69	64	5	66	南河内郡河南町	7	6	1
31	大阪市東成区	67	63	4	67	三島郡島本町	6	6	0
32	大阪市城東区	66	56	10	68	泉南郡岬町	4	4	0
33	松原市	61	56	5	69	南河内郡太子町	4	3	1
34	大阪市東淀川区	60	56	4	70	泉南郡田尻町	3	2	1
35	堺市北区	60	43	17	71	南河内郡千早赤松	2	2	0
36	堺市西区	55	49	6	72	豊能郡豊能町	1	1	0

飲食店と理美容室では、大阪府内でも地域によって異なる傾向が見えてくる結果となりました。

「食」と「美」を融合する街大阪

2024年、大阪府では「飲食店」5,214件、「理美容室」647件が開業しました。

この2業種の開業件数に注目すると、街の“にぎわい”や“生活インフラ”が集まるエリアの輪郭が見えてきます。本レポートでは、市区町村別の開業上位エリアを対象に、両業種の分布と特徴的な傾向を読み解きます。

1 開業件数トップは「中央区」と「北区」。“ビジネスと観光の中心”の二強

市区町村	合計開業数	飲食店	理美容室	飲食店比率	理美容比率
大阪市中央区	770	700	70	90.91%	9.09%
大阪市北区	732	650	82	88.80%	11.20%

中央区・北区は、大阪を代表するビジネス・観光エリア。

心斎橋・本町・梅田といった繁華街を抱える両区は、外食ニーズとトレンド志向の美容需要が共に強いことから、両業種ともに高水準の開業が見られました。

●中央区は、飲食店比率が高く、「昼夜問わず人が集まるグルメの街」。

●北区は、中央区に比べて理美容比率が高く、「身だしなみ・ファッションへの意識が高い層」が多いのが特徴です。

理美容室の出店割合からは“ビジネスパーソンの身だしなみ需要”が多い地域性も読み取れます。

2 東大阪・豊中・枚方:「住む街」に根ざす地元型ビジネスの拠点

市区町村	合計開業数	飲食店	理美容室	飲食店比率	理美容比率
東大阪市	315	286	29	90.79%	9.21%
豊中市	162	134	28	82.72%	17.28%
枚方市	154	135	19	87.66%	12.34%

これらのエリアは、大阪市へのアクセスが良く、住宅地として発展した街です。

そのため、飲食店は「ファミリー・地域住民向け」が中心、理美容室も「通いやすさ・リーズナブルな価格」を武器とした生活密着型サロンが多い傾向があります。

特に、豊中市は理美容比率が約17.3%と高く、「美容で差別化を図る街」として注目されます。チェーン店だけでなく、個人経営のサロンの開業率も高いのが特徴です。

「食」と「美」を融合する街大阪

3 西区・福島区・西成区:コンパクトエリアに多様なニーズが凝縮

市区町村	合計開業数	飲食店	理美容室	飲食店比率	理美容比率
大阪市西区	167	142	25	85.03%	14.97%
大阪市福島区	105	101	4	96.19%	3.81%
大阪市西成区	113	112	1	99.12%	0.88%

- 西区は若者向けアパレル・カフェ文化が根付くエリアで、デザイン性やSNS映えを意識した出店が多く見られます。
 - 福島区は、「福島グルメ」の名で知られる飲食の激戦区。
 - 西成区はディープな大阪の象徴的地域で、ローカル系飲食店が圧倒的に多く、理美容室はごく限定的です。
- このように、同じ大阪市内でも、街の性格により理美容と飲食のバランスは大きく異なります。

4 飲食と理美容の「理想比率」とは？

- 全体平均では、飲食:理美容の割合は 約8:1。
 しかし、特定エリアでは理美容比率が10%を超える街も多く、これらの地域では
- ・おしゃれに敏感な層
 - ・繰り返し通う需要
 - ・差別化されたサービスのニーズ があると推察できます。

今後は、飲食との併設型サロンや、美容室とカフェの融合店舗など、業態ミックスの可能性が広がるエリアも出てくるのではないのでしょうか。

街の顔に合わせた“開業戦略”が勝ち筋

大阪では、「働く街」「住む街」「遊ぶ街」によって、飲食と理美容の開業バランスが明確に分かれます。このデータは、「どのエリアに、どんな店舗が求められているか」を考えるうえで極めて重要な示唆を与えてくれます。

今後さらに開業戦略を磨くには？

- 「理美容比率の高い街」は、美容特化や高単価路線で勝負
- 「飲食主導の街」は、テイクアウト・多国籍料理・夜型対応で差別化
- 「住商混在エリア」は、“日常+ちょっと特別”な店づくりが鍵

データに基づいた地域理解が、ビジネス成功への最短ルートとなるのではないのでしょうか。

御堂筋線 × 飲食&理美容開業レポート ～大阪の大動脈に見る、出店戦略と都市の個性～

御堂筋線 × 飲食&理美容開業数

大阪を南北に貫く大動脈「御堂筋線」。
2023年～2024年の飲食店と理美容室の開業データ(駅を中心とした半径1km圏)を、
各駅の乗降客数と照らし合わせ、「人の流れ」と「開業意欲」の関係性を分析しました。

- 対象駅:御堂筋線 全20駅
- 開業件数:2023年・2024年
- 乗降客数:国土交通省データ(参考)
- 分析視点:「開業数が多い＝集客力が高い」ではない、“目的性”にも注目

御堂筋線	飲食店		理美容		
駅名	2023年 開業数	2024年 開業数	2023年 開業数	2024年 開業数	近年の 平均乗降客数
ALL	1,885	1,633	365	318	2,029,351
梅田駅	455	464	65	60	376,997
難波駅	714	516	43	34	298,803
天王寺駅	83	63	15	17	230,570
淀屋橋駅	363	307	24	21	189,507
本町駅	199	186	31	29	187,469
心斎橋駅	712	523	72	61	128,279
新大阪駅	67	65	6	5	125,819
江坂駅	28	23	7	8	93,022
中百舌鳥駅	17	14	8	7	63,852
西中島南方駅	46	51	3	3	56,702
中津駅	137	129	38	40	37,190
東三国駅	4	10	4	2	32,031
長居駅	26	36	6	2	31,853
我孫子駅	30	33	4	3	31,532
大国町駅	111	81	6	8	30,126
動物園前駅	85	90	8	11	27,808
昭和町駅	35	32	13	0	23,891
北花田駅	10	5	3	4	22,900
西田辺駅	30	31	8	1	21,264
新金岡駅	4	3	1	2	19,736

※開業数…大阪メトロ御堂筋線沿線の駅周辺半径1kmで計測。(Review調べ)
※平均乗降客数…国土交通省「国土数値情報(S12)公共施設データ 2022年版」に基づいています。

数字に見える、大阪の“開業マインド”

※2024年開業数を記載。

御堂筋線沿線では、飲食店が1,633件・理美容が318件と、およそ5店舗に1店舗が理美容業という割合で開業されており、飲食を中心としつつも「生活に密着した業種」も着実に展開が進んでいます。

1 心斎橋駅:集客以上に店出される「目的地型エリア」

●心斎橋:584件(飲食523・理美容61)/乗降客数:約128,279人/日

→ 心斎橋は、駅周辺に観光・ショッピング・ファッションが集中しており、駅利用者数以上に多くの人々が目的地として、「わざわざ訪れる」エリアとなっています。

特に、インバウンド向けやSNS映えのカフェ・スイーツ系店舗が開業を後押ししています。

2 梅田・難波:にぎわいと開業数が比例する“都市核型ゾーン”

●梅田:524件(飲食464・理美容60)/乗降客数:約376,997人/日

●難波:550件(飲食516・理美容34)/乗降客数:約298,803人/日

→ 駅乗降客数では、御堂筋線トップの梅田と難波。いずれも、大規模ターミナル駅としての機能を持ち、昼夜問わず人が滞留する環境が整っています。

オフィス需要・観光客・買い物客など多様なターゲットに向けた業態が入り混じり、エリア全体での競争と共存が進んでいるのが特徴です。



開業数は乗降客数に比例しない？

飲食店や理美容室の開業数は、必ずしも乗降客数に比例するわけではありません。むしろ、以下のような“別の要因”が大きく影響しているのではないのでしょうか。

- ① 「目的地型」か「通過型」かで差が出る
- ② 物件の立地や供給量の違い
- ③ 街の性格(生活圏か観光地か、オフィス街か)
- ④ 入れ替わりの激しさ(開業と閉業のサイクル)

数字に見える、大阪の“開業マインド”

※2024年開業数を記載。

3 淀屋橋・本町:ビジネス街の回復と“機能特化型”の成長

- 淀屋橋:328件(飲食307・理美容21)／乗降客数:約189,507人
- 本町:215件(飲食186・理美容29)／乗降客数:約187,469人

→ 平日昼間人口が多く、オフィスワーカーの“ついで消費”をターゲットとした店舗が伸長。近年はコーヒースタンド・サラダボウル・小箱レストランなど、単品型・時短型の業態が出店を牽引。“長く滞在する街”ではないからこそ、「機能性」が勝ち残りの鍵。

4 中津・西中島南方:開発に呼応した“成長中の生活拠点”

- 中津:169件(飲食129・理美容40)／乗降客数:約37,190人
- 西中島南方:54件(飲食51・理美容3)／乗降客数:約56,702人

→ 中津は梅田に近く、「裏梅田」的な立ち位置で注目度上昇中。理美容の割合が高く、“住む街”としての魅力がじわじわ浸透しているのではないのでしょうか。西中島南方はビジネスと住宅が混在しており、コスパランチやスモールバルが中心。狙いを定めれば、費用対効果の高い開業ができる穴場ゾーンとも言えるでしょう。

5 南エリア(天王寺～なかもず):地元密着の“堅実商圈”

- 天王寺:80件(飲食63・理美容17)／乗降客数:約230,570人
- 長居:38件(飲食36・理美容2)／乗降客数:約31,853人
- 新金岡:5件(飲食3・理美容2)／乗降客数:約19,736人

→ 地元住民の利用が多いエリアでは、派手さはないが“定着率の高さ”が期待されます。長居周辺は、長居公園・スタジアム・駅前スーパーなど、生活とイベントが交差する立地。店舗数こそ少ないが、「地元の一店になる」ことが開業成功のカギと言えるかもしれません。

「開業数が多い街」が、“勝ちやすい街”とは限らないのです。心斎橋のように目的型の開業が集まる街もあれば、中津のように密かに需要が育っている街もあります。

重要なのは、その街の“流れ”と“目的”を読み解くこと。飲食も理美容も、立地ではなく“来街理由”から逆算する時代に入っているかもしれません。

中央線 × 飲食&理美容開業レポート ～万博開催の中央線、その「にぎわい」と「静けさ」～



中央線 × 飲食&理美容開業数

万博開幕、“開業の熱”はどこへ向かうのか？
2025年の大阪・関西万博の開催に向け、中央線沿線の注目度が上がっています。
では実際に、出店・開業という現象はどこで起きているのか。
飲食・理美容の開業数と駅の乗降客数をもとに、中央線の“街の温度”を可視化しました。

- 対象駅:中央線 全14駅 ※夢洲駅除く
- 開業件数:2023年・2024年
- 乗降客数:国土交通省データ(参考)
- 分析視点:万博開幕を前に、“動き始めた街”と“これからの街”を見極める

中央線	飲食店		理美容		
駅名	2023年 開業数	2024年 開業数	2023年 開業数	2024年 開業数	近年の 平均乗降客数
ALL	254	220	128	127	634,854
本町駅	241	212	47	42	187,469
堺筋本町駅	226	194	37	37	99,019
谷町四丁目駅	97	79	6	12	79,391
阿波座駅	104	95	20	18	42,176
弁天町駅	27	16	2	5	36,287
森ノ宮駅	32	39	7	5	28,711
九条駅	37	31	1	5	23,534
コスモスクエア駅	2	3	0	0	21,940
長田駅	3	11	0	0	21,433
緑橋駅	25	25	6	1	21,217
深江橋駅	11	5	1	0	20,529
朝潮橋駅	11	8	0	2	19,173
大阪港駅	7	5	0	0	17,372
高井田駅	10	8	1	0	16,603

※開業数…大阪メトロ中央線沿線の駅周辺半径1kmで計測。(Review調べ)
※平均乗降客数…国土交通省「国土数値情報(S12)公共施設データ 2022年版」に基づいています。

万博開催の中央線、その「にぎわい」と「静けさ」

※2024年開業数を記載。

中央線沿線を中心としたエリアでは万博開幕前の静かな開業ラッシュも観測され、万博後の持続的商圈を見据えた戦略的出店が進行中です。

1 本町・堺筋本町:「働く街」だからこそそのリアルニーズに支えられた安定

- 本町駅:254件(飲食212・理美容42)／乗降客数:約187,469人／日
- 堺筋本町駅:231件(飲食194・理美容37)／乗降客数:約99,019人／日

→ 中央線の中でも頭ひとつ抜けた“開業2強”。

特に本町は御堂筋線・四つ橋線も乗り入れるジャンクション駅であり、大阪のビジネスの中心地。ランチ・カフェ・立ち飲みなど短時間利用型の飲食に加え、理美容はヘアセット・シェービング・ネイルなど、“出社前”を狙う業態が多く出店。

堺筋本町も同様に、平日稼働型の需要が高く、「働く人の隙間を狙う出店」が成功の鍵と言えるでしょう。

2 谷町四丁目・阿波座:駅利用数に対して健闘する“中規模開業地”

- 谷町四丁目駅:91件(飲食79・理美容12)／乗降客数:約79,391人／日
- 阿波座駅:113件(飲食95・理美容18)／乗降客数:約42,176人／日

→ 谷町四丁目は官公庁や法律事務所、阿波座は住宅と小規模オフィスが混ざる街。一見地味だが、日常使いされる飲食・理美容が強いのが特徴。

阿波座では健康系ランチ・ジム併設型サロンなど、“暮らしに溶け込む業態”が浸透中。大手に頼らずとも回転する、“ローカル型の成長市場”といえます。

3 森ノ宮・九条:地元と観光のはざまにある“地域再評価ゾーン”

- 森ノ宮駅:44件(飲食39・理美容5)／乗降客数:約28,711人／日
- 九条駅:36件(飲食31・理美容5)／乗降客数:約23,534人／日

→ 森ノ宮は大阪城公園や大型ジム施設などもあり、“地元＋ちょっと観光”の位置づけ。九条は京セラドーム最寄の一つでもあり、イベントやライブ需要も狙えます。

開業数は多くないですが、一定のローカル需要が安定して存在し、低リスク出店の候補地として注目です。

万博開催の中央線、その「にぎわい」と「静けさ」

※2024年開業数を記載。

4 万博圏エリア(コスモスクエア・大阪港・朝潮橋)まだ静かな“開業前”

- コスモスクエア駅:3件(飲食3・理美容0)／乗降客数:約21,940人／日
- 大阪港駅:5件(飲食5・理美容0)／乗降客数:約17,372人／日
- 朝潮橋駅:10件(飲食8・理美容2)／乗降客数:約19,173人／日

→ 万博開催の“表玄関”となる予定のコスモスクエア周辺だが、現在の開業数は極めて少ないのです。開発が進む今だからこそ、物件は高騰せず、“攻める余地”も多いが、本格化は2025年以降とみられます。

今出店するなら、万博に合わせたコンセプト作りや仮設対応、期間限定型の展開などが相性もいいかもしれません。

5 東部エリア(長田・緑橋・深江橋・高井田)ローカル特化の“サイレント商圈”

- 長田駅:11件(飲食11・理美容0)／乗降客数:約21,433人／日
- 緑橋駅:26件(飲食25・理美容1)／乗降客数:約21,217人／日
- 深江橋駅:5件(飲食5・理美容0)／乗降客数:約20,529人／日
- 高井田駅:8件(飲食8・理美容0)／乗降客数:約16,603人／日

→ いずれも地元住民の生活圏。

開業件数は少ないですが、小さく始めて、長く続けたい業態には合う土壌です。

大手チェーンもありますが、「街の店」として定着できる余白があるのではないのでしょうか。

特に、緑橋は近隣の住宅開発も進んでおり、今後静かに数字を伸ばす可能性があります。

中央線は“今動いている街”と“これから動く街”が共存する路線

- 働く街(本町・堺筋本町)は堅調な開業地としてすでに高密度です。
- 万博エリア(コスモスクエア周辺)は静かだが、2025年に向けて爆発力を秘めています。
- ローカル駅(阿波座・緑橋・長田など)は、生活密着型店舗にとって実は狙い目です。

開業数の大小だけにとらわれず、「いつ・どこで・誰向けに」出すのかが今後の鍵となるでしょう。

中央線は、“実需型”と“未来型”の両面でチャンスが眠るエリアといえます。

OSAKA 飲食・理美容 開業レポート ver2 まとめ



大阪飲食・理美容レポートまとめ

「大阪って、ほんまに開業が多いん？」

そんな問いに、2024年のデータはしっかりと答えてくれます。
飲食店は5,214件、理美容室は647件。数だけを見ても、大阪は今、“開業の街”として大きく動いています。
でも、それはただの数字ではありません。

夏に爆発的に増える飲食店。春と夏にイメチェンを後押しする理美容室。
どのタイミングで、どんな場所で、どんな思いを持って生まれたのか。
そこには、大阪という土地のリズムと、人の暮らしの温度感があります。



「勝負したるで」という気質と、「喜んでもらいたい」という心意気

大阪で開業する人たちは、みんなちょっと前のめりで、でもどこかあたたかい。

- ・通天閣のふもとで、立ち飲み屋を始めた人
- ・地元商店街の一角に、こっそりとサロンを構えた若い美容師
- ・観光客向けに、多言語対応のメニューを手書きで準備する店主

そこにあるのは、“儲けたい”だけじゃない、「人に喜んでもらいたい」大阪の心なのではないでしょうか。



万博開催を機に、大阪はまた一步、進化しようとしている

2025年大阪・関西万博を迎え、街の形も、人の動きも、変わりつつあります。

インバウンド対応、ハラールやヴィーガン食、セルフ型美容の広がり…
そこに大阪ならではの「気さくさ」や「商売魂」が掛け合わさって、
新しい“おもてなしの商い”が育ち始めています。

「あなたは、どんな大阪をつくれますか？」

飲食と理美容。どちらも、人と人との距離がいちばん近い商売。
だからこそ、大阪では“物語のあるお店”が支持される。
だからこそ、「誰と」「どんなふうに」この街に関わるかが問われる時代なのです。

大阪飲食・理美容レポートまとめ

「あなたは、どこで開業しますか？」

「あなたは、誰に向けて、そのお店をつくれますか？」

そしてもうひとつ——

「あなたは、どんなお店を応援しますか？」

「あなたは、どんな大阪を選んで、暮らしていきますか？」

お客さんとして、お店に足を運ぶということは、
この街の誰かの夢に一票を投じるすることでもあります。

その小さな選択が、この街の空気をつくり、次のチャレンジを後押ししていくのではないのでしょうか。

大阪という街は、いつも“誰かの挑戦”に寛容で、優しい。
きっと今日もどこかで、新しい店がシャッターを開けている。

「なんでもやってみいな、応援するで」

その声は、開業する人にも、通い続けるお客さんにも、まっすぐ届いているはずです。



このレポートが、飲食・理美容業界に携わるすべての方にとって、
大阪という街の魅力と、これからの業界の発展の一助となれば幸いです。

2025年、そしてその先へ——

大阪そして、業界のさらなる発展を願い、このレポートをお届けいたします。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当: 五味川
E-mail: gomikawa@re-view.co.jp
TEL: 06-7730-9109

Re:view